



介護老人保健施設あのを デイケアセンター  
支援相談員 田中 基嗣



私の母と姉が医療福祉系の仕事をしており、「医療福祉現場で働いている人ってカッコイイ」というイメージと、自分自身も他人と関わることが好きな性格で、仕事をするなら日常生活の場を支援できる介護の仕事がやってみたいという気持ちで、介護士としての道を選択しました。

その後、私は介護福祉専門学校へ入学し、2年間講義・実技を通し介護知識を学びましたが、自分自身が実際に現場に出て「利用者様に失礼のない様な対応」ができるかどうか心配で、在学中何度か投げ出したくなった時もありました。利用者様との関わりの中で、怪我や最悪の事態が起こってしまうのではないかと考えてしまい、本当に将来介護士としてやっていけるのか不安でした。

専門学校の最終実習にて、あけあい会のつつじの里で1か月程、実際の利用者様への接し方や介助方法などを学ばせて頂きました。しかし、不安な気持ちが先だっけてしまい、実技指導の際積極的になれない自分が居ました。

そんな自分に気が付いてくれた実習担当職員さんが「僕も、常に不安な気持ちと隣り合わせで仕事をしてるけど、それを怖がってしまったら利用者様に向き合えないよね。」「不安な事と向き合って、恐れずに行えたら、もう怖くないよ。」の言葉がけに、私の中のもやもやが吹き飛びました。

その他にも、座学では学ぶことのできない動きや、チームワークの大切さ等も教えて頂きました。とても忙しい現場において私を指導して下さった実習担当職員さんの介護技術や利用者様への対応・問題における迅速な判断力にとっても衝撃を受け、このあけあい会で自分にとって一番の憧れとなりました。

現在は、あけあい会に入社して8年目を迎え、支援相談員と介護士を務めさせて頂いています。今こうして、この場でこの文章を書けるのも、実習指導して下さった職員さん（今となっては憧れの先輩）が助けてくれたからです。私も先輩のような一介護士として胸を張って、今以上にステップアップ出来る様、これからも利用者様に支援していきたいです。

最後に「先輩の声」なくして、今の自分はなかったと思うので、私が指導者という立場で後輩や学生に教える機会があるならば、あの言葉を掛けてあげたいです。